

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	
Title(English)	Affect and Communication: Perspectives of Information and Emotion Communication
著者(和文)	JIAMSSANGUANWONGArisara
Author(English)	Arisara Jiamsanguanwong
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9563号, 授与年月日:2014年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:梅室 博行,村木 正昭,伊藤 謙治,妹尾 大,鈴木 定省
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9563号, Conferred date:2014/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	Arisara JIAMSANGUANWONG		
論文審査 審査員		氏名	職名		氏名	職名
	主査	梅室博行	准教授		鈴木定省	准教授
	審査員	村木正昭	教授	審査員		
		伊藤謙治	教授			
		妹尾大	准教授			

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は“*Affect and Communication: Perspectives of Information and Emotion Communication*”（「感情とコミュニケーション：情報と感情のコミュニケーションの展望」）と題し、人間のコミュニケーションと感情との関わりについて議論したものである。本論文は5章から構成されている。

Chapter 1: Introduction (序論)では、人々の生活におけるコミュニケーションと感情の重要性を確認した上で、これらが互いに独立したものではなく深く関連した概念でありこれらを包括的に理解する必要性を指摘している。そして情報を伝達するコミュニケーションである情報コミュニケーションと、感情を伝達する感情コミュニケーションという、本論文の骨格をなす2つの観点を提示している。それらを踏まえて本研究の位置づけ、目的及び本論文の構成について述べている。

Chapter 2: Influence of affective state on comprehension and hazard perception of warning pictorial (警告図記号の理解と危険知覚に対する感情状態の影響)では、第1の観点である情報コミュニケーションの例として危険を知らせる警告図記号を取り上げ、なじみのない警告図記号を見たときの感情の状態(感情価)が、その警告図記号が伝えようとしている情報をどの程度効果的に伝達できるかに対して与える影響を実験的に調べている。情報コミュニケーションの効果として警告図記号の意味を正確に理解することができるか、その警告が伝えようとしている危険をどの程度知覚できるかの2つをとりあげ、実際に被験者の感情状態を統制することによりそれらの指標を実験的に比較している。その結果ポジティブな感情状態の人は警告図記号がより危険を伝達していると知覚するなど、感情状態が情報の伝達に影響しうることを明らかにしている。

Chapter 3: Factors influencing people's perception of the appropriateness of affect communication (人々の感情コミュニケーションの適切性の知覚に影響する要因)では第2の観点である感情コミュニケーションに着目している。自身の感情についてのコミュニケーションは日常生活では不可欠な活動であるが、一方不適切な状況でこれをおこなうと望ましくない結果につながることも知られている。感情のコミュニケーションをおこなうことを人々が適切と知覚するかどうかに影響する要因について、本研究では文献調査に基づいて仮説設定した内的・外的諸要因について、その感情コミュニケーションの適切性に対する影響を質問紙調査を通して包括的に検証している。その結果仮説として取り上げた個別の要因の多くの主効果を検証しただけでなく、それらの交互作用も存在することを明らかにしている。

Chapter 4: General discussion (全体議論)では、本博士論文全体を俯瞰した議論をおこなっている。本論文で得られた主要な結果を総括した後、本研究の結果の応用可能性の展望についての議論を展開している。その中でポジティブな感情を与えることを意図した警告サイン (affective warning sign) や、適切な状況で感情コミュニケーションをおこなうことを支援するシステム (affective intelligence communication media) など新しい概念を提示しているほか、感情知能や文化、性差や年齢など個人差の影響の可能性についても言及している。

Chapter 5: Conclusion (結論)では本研究の貢献をまとめるとともに研究から得られる知見や研究の限界を示し、将来の研究課題を提示している。

以上、これを要するに本論文は、感情とコミュニケーションという人に不可欠な2つの概念の関係を多面的に検討し、人間のコミュニケーションと感情の関係についての知見を与え、さらに将来の工学的応用について展望を提示した。これは人間が他の人間、技術、環境とより良い関与をするための新しい知見を示すものであり、工学上貢献するところが大きい。よって博士(工学)の学位論文として十分価値があるものと認める。